

## ティーチング・ステートメント

所属 保健医療学部 看護学科

名前 和田 悠矢

作成日 2023年3月13日

### 【責任】

保健医療学部看護学科に所属し、主に成人看護学を担当している。また、成人看護学の中でも慢性疾患看護に関わる科目を担当している。教育活動としては成人看護学援助論演習Ⅱ、成人看護学援助技術論演習Ⅱ・成人看護学実習Ⅱの科目を担当しており、卒業研究の補佐を行っている。その他、オープンキャンパスを担当し入試広報業務にも参加している。

### 【理念】

#### 理念1「学生自身が看護師として働いている将来像を想像してほしい」

看護学科に在籍している学生は、入学前から看護師になりたいという目標を抱いていることが多い。しかし、看護師になるという目標を超えて、どのような看護師になりたいのか具体的に将来自分がなりたい看護師像を創造している学生は多くない。そのため、講義や実習の中で医療現場の実際に触れることで、将来、看護師として働いている自分の姿を想像できるように教授していきたい。

#### 理念2「看護師としての自主性とチーム医療における多様性を身に付けて欲しい」

医療現場ではチーム医療という概念が定着しつつある。看護師はそのチームの一員であり、時にはリーダーシップを取らなければならない場面がある。なぜなら、看護師は対象者の日常生活におけるケアを行うことが職務であり、他の医療従事者よりも密接に対象者と関わる機会が多いからである。対象者に最善なケアは何かという問いについて主体的に考え、その考えをチームに反映することや、他職種からの意見を柔軟に取り入れる姿勢が重要であることを教授していきたい。

#### 理念3「時間厳守の大切さを、看護師として従事する前に身に付けて欲しい」

看護師として従事する上で、時間管理を怠ってはならない。例えば、対象者の処置の時間や薬剤を与える時間など、時間が定められていることが多々ある。対象者の安全や安楽を保つために時間の管理に徹底することを、学生のうちに身に付けられるように教授していきたい。

### 【方針・方法】

理念1に対応する「方針1：臨床現場のリアルな情報を知ってもらう」、理念2に対応する「方針2：学生が主体的に学習できるようサポート」・「方針3：学生の思考を活性化する」、理念3に対応する「方針4：教員として時間厳守することをルールとしている」という4つの方針に基づいて教育を行っている。

#### 方針1「臨床現場のリアルな情報を知ってもらう」

方法1：教員の体験談や最近の先行研究を用いて、臨床現場で実際に起きていることを学生に伝える。

#### 方針2「学生が主体的に学習できるようサポート」

方法2：はじめに学生の意見や考えを聞いた後に指導を行うよう心掛ける。

方法3：学生の意見や考えを引き出せるように発問する。

方法4：授業内外問わず、学生と会話する時間を作る。

### 方針3「学生の思考を活性化する」

方法5：グループワークを活用し、学生自身の意見を発言する力や他者の意見を聞き客観的に振り返る能力を養う。

方法6：学生の意見や感想を授業内で発表し、学生自身の意見等を発信する能力を養う。

方法7：授業内外問わず、学生と会話する時間を作る。

### 方針4「教員として時間厳守することをルールとしている」

方法8：授業開始・終了時間を厳守する。

#### 【成果・評価】

授業や実習後に学生から、「看護師が臨床でどのように働いているか、実際がわかってよかった。」や「今後、自身が看護師になったときの理想像が見えてきた。」等の「臨床に即した看護実践に関する知識が向上した」というような意見が聞かれた。また、学生個々のレベルに合わせた指導が行えていると、上司の教員からフィードバックをいただいた。

#### 【目標】

##### 短期目標

- ・学生が主体的に学習できるような授業計画を立案、実践する。（2025年3月）  
→学生からのアンケートと他の教員からのフィードバックにより授業の評価を行う。
- ・医療チームの中の看護師のあり方と多様性が身につくための授業計画を立案、実施する。（2025年3月）  
→教員からの一方向の授業展開ではなく、学生と対話し、共同して双方向な授業を展開ができるよう心掛ける。学生アンケートと他の教員からのフィードバックにより評価を行う。

##### 長期目標

- ・卒業生が臨床経験を通して、看護師として必要な自主性と多様性に関してどのように捉えているか、情報交換を行うことで臨床とのギャップが生じないよう教育することに努める。（2028年3月）